第32号

2020年11月2日

(令和2年11月2日)

ソムリエの風

特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会会報紙

発行　特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会
広報グループ
〒630-8217
奈良市橋本町3-1
きらっ都･奈良内NARAEGG気付

設立10周年を控え、南都銀行と連携協定を締結！

連携協定締結式（7/21）

本年7月21日（火）、当会は南都銀行と「観光振興及び地方創生に関する連携協定」を締結しました。同日は同行本店で、締結式を行いました。今後は歴史、文化、観光振興などに関し緊密な連携を図り、Win-Winの関係を築いてまいります。第1弾として、9月12日（土）～22日（火）の11日間、同行OB・OGからなる「ナント・なら応援団」と合同で、安養寺（磯城郡田原本町八尾）特別開帳の定点ガイドを行いました。

（専務理事　鉄田　憲男）

快慶仏に1日約58人が特別拝観

安養寺の庫裡には、快慶作の阿弥陀如来立像（国重文）が安置されています。奈良国立博物館の快慶展にも出展された名品です。お寺で予約不要で公開されるのはこれが初めてとあって、関東方面など遠方からもたくさんの拝観者が訪れました。またお寺の墓地には五代友厚氏の奥さん・豊子さんの実家の墓があり、たくさんの拝観者がお参りされました。

松島住職はNPO法人「おてらおやつクラブ」の代表理事で、恵まれない子どもたちに、お供えの食べ物を届けていらっしゃいます。

今回のガイドの好評を受け、11月と12月にも合計5日間の定点ガイドの依頼をいただきました。

当日受付はナント応援団員（9/20）

不空院からも定点ガイドの依頼

奈良市高畑町の不空院は、新薬師寺の東にあります。本尊の不空羂索観音坐像（国重文）は毎年春と秋に特別公開されており、今回は秋（10月17日と25日～11月15日）の公開に合わせて23日間、1日2人程度がガイドに入ります。

説明会のあと本尊を参拝（10/13）

※以下の画像は、南都銀行社内報に紹介された4ﾍﾟｰｼﾞのうちの3ﾍﾟｰｼﾞ

NPO法人「奈良まほろばソムリエの会」理事長　豊田（とよだ）　敏雄（としお）さん

10周年を目前に南都銀行と「連携協定」

奈良まほろばソムリエの会は、「奈良まほろばソムリエ検定」（奈良検定）を契機に組織された会です。

2011年4月、同検定の最上級資格である「奈良まほろばソムリエ」合格者同士の親睦・交流団体「奈良まほろばソムリエ友の会」として発足。

2013年2月にNPO化、その時から、奈良を愛する人なら誰でも入会していただける会といたしました。来年には創立10周年を迎えます。

会員数は発足当初の153人から416人（本年7月1日現在）と大きく増えました（うちソムリエ合格者は366人）。南都銀行の行員・OBの皆さんもたくさん入会されていますし、「ナント・なら応援団」のメンバーもいらっしゃいます。

当会にはさまざまな年齢層の会員がいますが、平均年齢は66歳です。人生百年の時代を迎え、「退職後はボランティア活動に励みたい」「心身の健康維持のため屋外で活動したい」「仲間を作りたい」という会員も多いです。

当会はこれまでに3冊の本を刊行しました。今は創立10周年記念事業として「奈良万葉の旅百首」を制作中です。60人の会員が分担して県内百首の万葉歌を紹介するという新書本で、来年2月の発刊を予定しています。

当会は社会貢献団体として「インプット（知識習得）よりアウトプット（対外活動）」が合い言葉です。7つのグループに分かれ、いわば「クラブ活動」的に活動しています。中心はガイド、講演、文化財の調査活動です。

当会のガイドは約60人。県内には約1800人（全国4位）もの観光ボランティアガイドがいますが、当会以外のガイドはすべて市町村単位です。当会だけが市町村境をまたいで、県内全域をガイドしています。さまざまなコースを基本的にお1人様500円で案内いたします。詳しくは、当会のホームページをご覧ください。

昨年12月には、貴行から紹介していただいたJR西日本のご協力を得て「JR万葉まほろばウォーク」を開催しました。万葉まほろば線（桜井線）の4両編成の新型車両をチャーターして、奈良駅から巻向駅まで乗車。車内では柿の葉ずしを食べながら、車掌のマイクで万葉ミニ講座。巻向駅からはガイドの案内で、万葉歌碑などを訪ねながら山の辺の道を大神神社までウォークする、というツアーで、遠方を含め約120人ものご参加をいただきました。

講演は奈良の歴史や文化に関するものが中心で、約30人の講師が主に県内と「奈良まほろば館」（東京・日本橋三越前）で行っています。中には1人で年間50回以上をこなす剛の者もいます。

文化財の調査活動は、当会の「保存・継承グループ」（約30人）が担当しています。今は県指定の史跡や天然記念物などを調査しており、調査終了後には、結果のまとめを報道発表する予定です。本年6月には、この調査を契機に仏像の独自取材を積み重ねた同グループの小倉つき子さんが『廃寺のみ仏たちは、今』（奈良県東部編）（京阪奈新書）を発刊されました。

ユニークな取り組みとしては「奈良まほろばかるた」があります。「飛鳥寺日本で一番古い寺」「一年の半分雨の大台ヶ原」など、奈良に関するさまざまな知識が遊びながら身につくかるたで、県内すべての子ども会に寄贈したほか、1箱1200円で販売しています。

このように当会はさまざまな活動を展開しています。今回の連携協定を機に、貴行地域事業創造部や「ナント・なら応援団」の皆さんと手を携え、奈良県の観光振興と地方創生に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

巻頭言

NPO法人「奈良まほろばソムリエの会」と連携して活動します！

7月21日（火）当行は「奈良まほろばソムリエの会」と連携協定を締結しました（巻頭言ご参照）。今後は同会が有する奈良の歴史・文化などに関するノウハウの提供を受け、当行の観光振興活動や、当行OBからなる「ナント・なら応援団」のガイド活動などに活用してまいります。（地域事業創造部）

【最近の取り組み】

同会は、「奈良まほろばソムリエ検定」（奈良検定）の最上級資格である「奈良まほろばソムリエ」の有資格者などからなる社会貢献団体です。会員数は416人で、当行行員やOBもたくさん加入しています。主な活動は観光ボランティアガイド活動、講演活動、文化財調査など。以下、同会の最近の主な取り組みを写真などで紹介します。

JR臨時列車によるツアー（2019.12.7開催）

奈良テレビ「ゆうドキッ！」（毎週月・水曜日）にレギュラー生出演中（写真は2019.11.7）

地蔵仏と後南朝の悲史

やまと百寺参り

毎日新聞奈良版（毎週木曜日）の連載

今年合格・入会された内藤幹さん（CVC室）

同左 菅田美波子さん（本部事務集中センター）

新会員紹介（ソムリエの会の会報紙より）

私は天理市在住で、南都銀行に勤務しています。昭和38年に生まれて以来、地元で過ごしてきたものの「灯台もと暗し」で、地域に関しては何も知らず、無関心そのものでした。

平成29年10月、地域活性化に取組む同行の組織として「観光戦略室」が設置され突然、転機が訪れました。「歴史文化・食・気候・自然」という観光の4大条件を備えた奈良県において、観光は間違いなく基幹産業になるとの考えのもと組織がスタートし、私も一員に加わりました。

仕事の上から知識習得に迫られただけでなく、何より同じ職場でソムリエの会の鉄田専務理事と出会ったことが大きな刺激となりました。

常に尻をたたかれ、プレッシャーを受けながら、2級受験からスタートしました。

しかし半ば強制から始まったものが、いつしか自主的なものに変化していきました。ソムリエの会の特別対策講座などに参加し、合格への大きなパワーをいただきました。

本会における様々な活動を通じて地元への見識を更に高め、これまで育ててくれた地域に恩返しすることが、私の目標です。

（木村茂浩：地域事業創造部）

なんと 2020 夏・秋　14

【これまでの取り組み】

「奈良まほろばソムリエの会」は、会員数153人の任意団体として2011年4月に発足し、2013年2月にNPO化しました。来年には設立10周年を迎えます。同会にはガイドグループ、保存継承グループなど7つのグループ（部会）があり、熱心に社会貢献活動に取り組んでいます。2017年2月にはこれらの活動が評価され、「第7回地域再生大賞」優秀賞を受賞しました。

2018年1月には「奈良まほろばかるた」を発売。昨年3月には、同会3冊目の著作となる「奈良百寺巡礼」（京阪奈新書）を発刊。「読みやすい」「お寺参りが楽しくなった」と好評を博しています。また本書の発刊を機に昨年4月から、毎日新聞奈良版で「やまと百寺参り」の連載がスタートしました。毎週木曜日、同会の会員が交代で執筆しています（画像=14ページ）。

昨年9月からは、奈良テレビの「ゆうドキッ！」に会員がレギュラー生出演。グルメ（月曜日）と奈良の雑学（水曜日）を熱く語っています。

同会には「ナント・なら応援団」のメンバーもたくさん加入しており、今後はより緊密な連携が期待されます。

同会の第1回総会（2011.6.11）

当行OBの栗田好史さん（ナント・なら応援団）として客様をガイド）

同左 長岡光雄さん（同 天川村をガイド）

同会の最近著（昨年3月に発刊）

同上 亀田幸美さん（右端 NPO発足記者会見で）

奈良まほろばかるた（税1,200円）

かるたを担当したOBの大山康功さん（後列左端）

15　なんと 2020 夏・秋

奈良テレビ「ゆうドキッ！」出演１周年

初出演の垣本麻希さん（10/5）

昨年９月 30 日（月）にスタートした「ゆうドキッ！」への出演から、はや１年が経ちました。本年 10 月５日（月）の放送には、ソムリエの会の松坂慶子こと垣本麻希さんが初出演。きれいなお声で万葉歌を朗唱されました。

友松洋之子さん（昨年 11/7）

思い出深いシーンといえば、やはり明石家さんまのサプライズ出演（昨年 11 月７日）。ソムリエの会の女王こと友松洋之子さんがあわてず騒がず、冷静沈着に行動されたのは、お見事でした。

奈良県警察機関誌に隔月連載

ブームに乗ろう！万葉集

今回から「ザ・トリビア！オブ奈良」のタイトルで、奈良に関する隠れた魅力を発掘・紹介します。初回のテーマは万葉集です。

元号「令和」で万葉集がブームに

元号「令和」が万葉集の題詞（詞書き）から採られたことで、一躍ブームになりました。令和元年だった昨年、奈良まほろばソムリエの会は三回の大きなウォーキングイベントに関わりました。うち一回は当会主催の「JR万葉まほろばウォーク」（十二月七日）。万葉まほろば線（桜井線）の四両編成の新型車両をチャーターし、奈良駅から巻向駅まで乗車。車内では柿の葉ずしのお弁当をいただきながら、車掌のマイクを使ったミニ講座に耳を傾けました。巻向駅で下車したあとはソムリエガイドの引率により、山の辺の道を万葉歌碑などをたどりながら大神神社まで楽しくウォーキング。歌碑の前では犬養節（故犬養孝氏の朗唱法）で皆さんと歌を詠み、万葉の時代をしのびました。参加者は一二六人でした。

万葉集に出てくる地名の約三分の一が奈良県の地名

万葉集に登場する地名は延べ約二九〇〇、うち奈良県の地名は延べ九〇〇で、全体の約三分の一を占めます。しかし案外このことを知る県民は少ないです。

私の周りには、「万葉集など古典の授業は苦手だった」という人が多いです。高校の授業で古典を学んだ人たちの多くは、「文法の学習が中心だった」「文法の学習は嫌いだった」と言います。「品詞分解、文法事項の確認、現代語訳」という訓詁注釈的な授業になじめなかった人は多いようです。

「音読、朗読、暗誦」「現地に足を運ぶ」

しかし社会人となった今、そんなつらい勉強はご無用です。「音読、朗読、暗誦」で万葉びとになったつもりで、万葉の世界を体感しましょう。それには現地（万葉歌のゆかり地）を訪ねるのが一番です。

そこで今、ソムリエの会では来年二月発刊をめざし、現地に携えていただける『奈良万葉の旅百首』というガイドブック（新書本）を制作中です。

景行天皇陵前で（昨年十二月七日）

三輪山を望む（同日）

本年９月末発行号から隔月で、鉄田が連載を持つことになりました。連載のタイトルは「ザ・トリビア！オブ奈良」。

見開き２ページで、奈良の豆知識を楽しく紹介します。

※画像は、機関誌「むれしか」。今回は３ﾍﾟｰｼﾞ掲載、そのうちの２ﾍﾟｰｼﾞ

まんようしゅう
ならうまれの
さいこのかしゅう

万葉集 奈良生まれの最古の歌集
「万葉集」は、7世紀後半から8世紀後半にかけてまとめられた日本最古の和歌集です。天皇、貴族から下級官人、防人などさまざまな身分の人が詠んだ歌が20巻4516首あり、大伴家持が編者と考えられています。成立は天平宝字3年（759）以後とみられています。額田王、柿本人麻呂、山部赤人、山上憶良、大伴家持などの歌があります。

このページでは各回のテーマに基づき、「奈良まほろばかるた」の絵札と字札を紹介します。初回の今回の札は「万葉集奈良生まれの最古の歌集」です。

現存最古・日本最高の歌集

故ドナルド・キーン氏は《『万葉集』は日本最古の歌集であるだけでなく、ほとんどの日本文学研究者の意見では日本最高の歌集でもある》《詩型と題材がこれほど豊富な歌集はほかになく、さまざまな社会階層の歌人が名を連ねている点でも、後世の、主として宮廷で作られた歌ばかりを集めている歌集とは異なる》（『日本文学史 古代・中世編一』中公文庫）と絶賛しています。

「炎」は「かぎろひ」（夜明けの太陽光）か「煙」（のろし）か？

最近の解説本を読んでみても、万葉集の研究は日進月歩です。宇陀市の阿騎野で詠まれた柿本人麻呂の歌に「東の野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば月かたぶきぬ」（東野炎立所見而反見為者月西渡）という有名な歌があります。「炎」を曙光と解釈したのです。これにちなみ、歌が詠まれたとされる十二月十三日（旧暦十一月十七日）の早朝には、毎年「かぎろひを観る会」が開催されています。

しかし平成二十五年に刊行された『万葉集（一）』（岩波文庫）では「東の野ら（野良）にけぶり（煙）の立つ見えて…」と訓読されています。つまり「炎」は曙光ではなく、狩猟のとき合図として焚かれる「煙火」（のろし）だというのです。私も、狩場なので「煙火」の方がふさわしいように思います。

夏痩せにはウナギを食べなさい

こんなユーモラスな歌もあります。大伴家持が痩せた人をからかった歌です。「石麻呂に我物申す夏痩せに良しといふものぞ鰻捕り食せ」。

夏の土用丑の日にウナギを食べる習慣は、江戸時代に蘭学者の平賀源内がウナギ屋から相談を受けたので、店先に「本日丑の日 土用の丑の日ウナギの日 食すれば夏負けすることなし」というキャッチコピーを貼り出すよう助言したことで広まったと言われますが、ルーツはすでに万葉の時代にあったのです。

シリーズ「万葉集」

『万葉集』のあらまし（３）

●歌に詠まれている地名はほぼ日本全土

万葉集に出てくる地名は、北海道と青森・秋田・山形・岩手・沖縄の５県を除く日本全土に及んでいます。地名は約 1,200(延べ約 2,900) 出てきます。その内、大和(今の奈良県) の地名は約 300(延べ約 900) あり、万葉集に出てくる地名の約４分の１が奈良の地名です。

●万葉集は歴史書でもある

万葉集は歌集であるとともに歴史書でもあるといわれています。有間皇子の変、大津皇子の事件や壬申の乱など歴史的な事件に関わる歌が数多くあります。次の歌は、大津皇子の辞世の歌で、

ももづたふ 磐余（いはれ）の池に 鳴く鴨（かも）を 今日（けふ）のみ見てや 雲隠（がく）りなむ（巻 3-416）

見慣れてきた磐余の池に鳴く鴨を見るのも今日が最後で、私は雲の彼方に隠れるのだなあ、と詠っています。

●原文はすべて漢字

万葉集は通常、漢字と平仮名の混じった読み下し文を目にしていますが、原文はすべて漢字で書かれています。万葉集の成立した時代には、まだ平仮名はなく、中国からきた漢字を音読みや訓読みして文字として使っており、字音によって書かれたものは一字一音で仮名文字と同じような機能だったことから「万葉仮名」とも呼ばれています。

また、原文で見ると掛け算の知識があったことがわかります。例えば、「十六」と書いて、鹿猪の「しし」(4×4=16) と読んでいました。

●今も生き続ける万葉人の心

万葉集のテーマは愛と死です。恋の歌あり、死の歌ありと、1300 年経った今でも人間の気持ちは変らず、万葉人の心は現代人の心や情景のなかに生きています。

最後に万葉集に関連して「奈良まほろばかるた」から。 **（米谷 潔）**

【万葉集奈良生まれの最古の歌集】

新理事・監事紹介

1951.5.1 生れ。会計を担当します。慣れない業務なので、まずはミスをしないように。ガイドグループ所属です。中学・高校は奈良で。社会人として全国を転々。退職後は、社会の役に立つことをやってみたいとの思いもあり、平城遷都 1300 年祭のボランティアに。

観光ガイドを通じて、一人でも多くの奈良ファンが増えることを願い、おもてなし❤の気持ちを込めて、お客様をお迎えします。奈良が初めての方にも、分かりやすくお話できるように心がけています。よろしくお願いいたします。

（会計担当　今西 秀次）

神社・仏閣・古墳に史跡、大好き満載の奈良県に暮らして 30 年余り。奈良の歴史・文化・自然を愛するひとりとして、なにかの役に立てるのではと奈良まほろばソムリエになりました。以前は製薬会社で国内外の研究所や工場を建設するエンジニアでした。異文化交流の経験と技術系の発想で奈良を多方面・多角的に発信してゆければと考えています。このたびは会の総務を担当させていただきます。どうぞご支援よろしくお願いいたします。

（総務担当　大江 弘幸）

当グループは会員登録数が約 150 人で、ソムリエの会最大の登録数を頂いています。また、会員の多くの方々は他のグループにも所属されています。

歴史探訪グループは、例会で訪れる史跡に、少々定説から離れても、独自の視線で考え、時代史の価値を深めます。この視線は他のグループで活動されても、そのグループの特色が良く理解できると思います。更に、この視点を広げ、他グループと有機的な結びつきを模索しながら、発展させたいと思っています。

（歴史探訪 G 担当　加藤 宣男）

本年度より監事を務めさせていただくことになりました。正直に申し上げて監事の役割を十分に理解しないままの就任でした。しかし、先日、参加した理事会で大きな衝撃を受けました。コロナ禍で例年通りの活動ができない中、様々な企画が提案され、熱心に議論されていたからです。私はうろたえ、大いに反省しました。

遅ればせながら、監事として当会に貢献できることは何かを考え、実行したいと考えています。よろしくお願い申し上げます。

（監事　西川 浩司）

自然あふれる大宇陀の山中で暮らしていますが、退職を機に、生まれ育った奈良市のことや実家の五劫院の歴史をもっと知りたいと思うようになり、ソムリエの会に入りました。会の活動を通して学ばせていただいたことはかけがえのない財産となっています。

これからも「知的・陽気・ポジティブ」をモットーとして、得た知識を多くの人々に広める活動に励む所存ですので、よろしくお願いいたします。

（女性 G 担当　松浦 文子）

第 11 回ソムリエ試験合格の新参者ですが、ガイドグループのリーダー交代に伴い理事に選任されました。

“コロナ禍”でガイドは全て中止という最中でのスタートとなり、これも試練として凶を吉に変えるのが課題でしょう。

観光業を中心に日本全体が閉塞する中、ガイドを通して奈良の魅力を発信するには、ガイドグループ 70 人余の所帯の組織的な動きが必要と思っています。これに向けて皆様のご協力・ご支援をお願いします。

（ガイド G 担当　三宅 努）

シリーズ「鉄道スポット」

鉄道の車窓から見える世界遺産

奈良県には 3 つの世界遺産に登録された場所がたくさんありますが、鉄道の車窓から見えるものはそれほど多くありません。有名なのは「古都奈良の文化財」に登録された「平城宮跡」を横切る近鉄奈良線(大和西大寺-新大宮間)。復元された朱雀門のすぐ北側を通ります。

近鉄橿原線と薬師寺

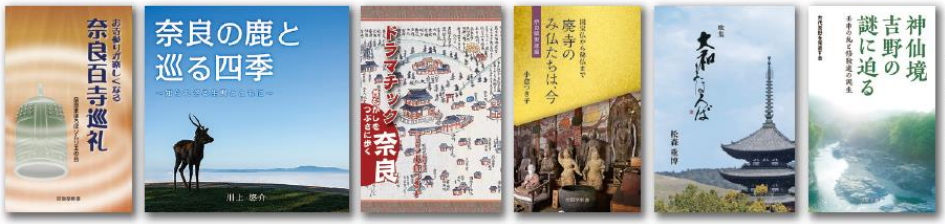
これ以外では同じく「古都奈良の文化財」の構成要素「薬師寺」の横を近鉄橿原線が走っています。「大和西大寺」から南へ向かい「西ノ京」駅を過ぎるとすぐ左側に昭和に再建された西塔が臨めます。

また薬師寺の境内からも走る電車を見ることができます。唐招提寺も線路から近いですが、塔などの高い建物がないので車窓から見ることは困難ですが南大門前から西を向けば踏切を行く電車が見れます。

もう一つは「法隆寺地域の仏教建造物」の中核である法隆寺。薬師寺のようにすぐ近くを通ってはいませんが、王寺から奈良方面に向かいしばらくして渡る大和川橋梁の付近から田んぼ越しに左側をよく見ると矢田丘陵の手前に五重塔を小さく見ることができます。さすがにあと一つの「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成要素が窓から見える鉄道は思いつきません。

（小林　誠一）

大和路線と法隆寺



『神仙境吉野の謎に迫る
―壬申の乱と修験道の誕生』古代吉野を見直す会
奈良まほろばソムリエの会会員の有志が中心となり、古代吉野の謎に迫る１冊。京阪奈新書から発売開始!! あなたも、古代吉野の謎を一緒に説き明かしてみては？

奈良の魅力を奈良人が奈良から発信！！　京阪奈新書、あをによし文庫、奈良ガイド、自費出版　京阪奈情報教育出版　検索

◆『神仙境吉野の謎に迫る―壬申の乱と修験道の誕生―』　【富田良一＝奈良まほろばソムリエの会会員】

吉野は修験道のメッカであり、古代史最大の内乱、壬申の乱発祥の地です。この壮大な吉野古代史を総合的に論述した書物としては、本書に序文をいただいた考古学者・前園實知雄氏と松田真一氏の共著『吉野仙境の歴史』（2004 年）があります。それ以来 16 年ぶりに、大淀町学芸員の松田度氏のご指導をえて、6 年にわたる研究活動の成果をソムリエの会有志 10 人で、『神仙境吉野の謎に迫る』と題する一冊の本にまとめました。

＜編集後記＞

奈良県内でも観光バスの姿を見かけるようになってきました。いろいろなことが少しずつ動き始めています。われわれも新しいやり方で動き出していきましょう。

(広報 G)磯兼・風間・柏尾・梶尾・佳山・窪田・小林(誠)・雑賀・沢田・島田・中村・廣岡・二上・福岡・藤田・増田・松森・吉川

特定非営利活動法人　奈良まほろばソムリエの会

事務所所在地：〒630-8217 **奈良市橋本町 3-1 きらっ都・奈良内 NARAEGG 気付**

ホームページ：http://stomo.jp/

メールアドレス：info@stomo.jp

つれづれ日記（ブログ）：http://nara-stomo.seesaa.net/

「奈良検定講座」ページ開設しました

HP の QR コード